

産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発

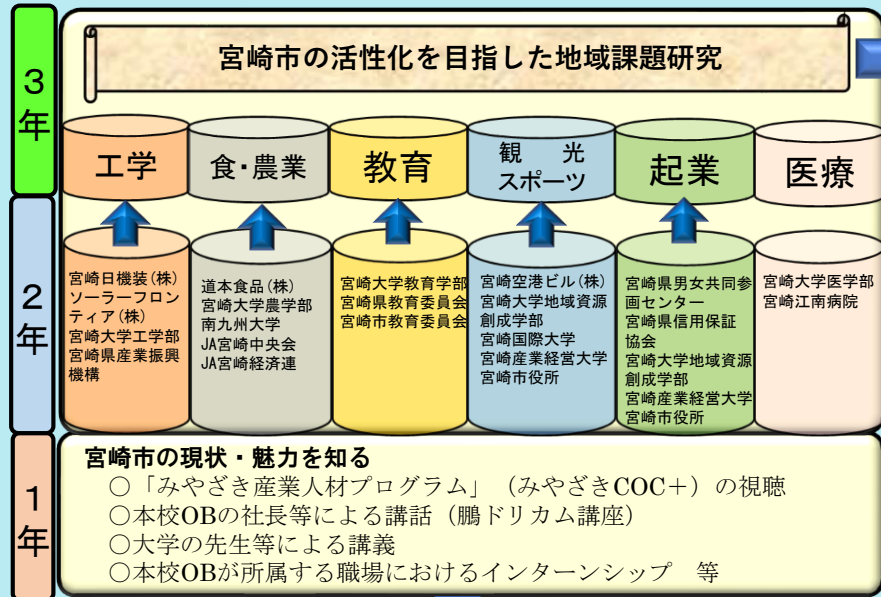
課題

- ・若年層の県外流出の増加
- ・郷土に魅力を感じていない生徒の増加
- ・自分の可能性に気づいていない生徒の増加

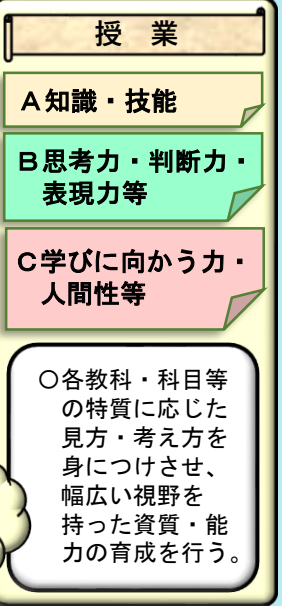
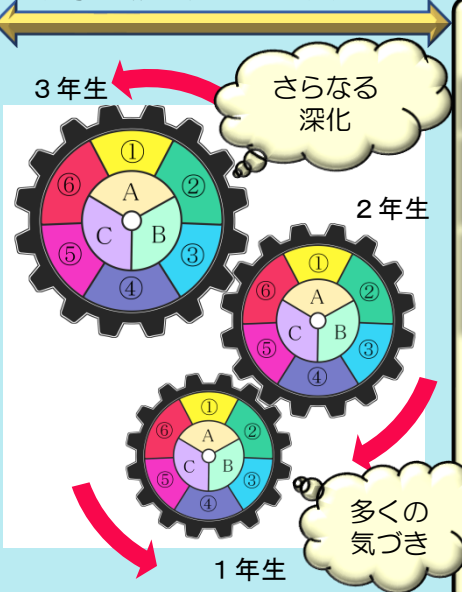
開発の目標

- ・身近な地域社会の問題を自分のこととして捉え、新たな解決策を地域に寄り添いながら提案、実践できる人材の育成
- ・宮崎市内の高校にも普及させ、地元活性化に人材を発掘できるコンソーシアムを構築

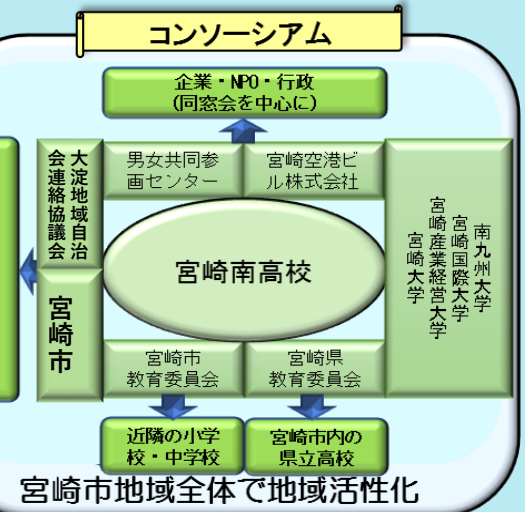
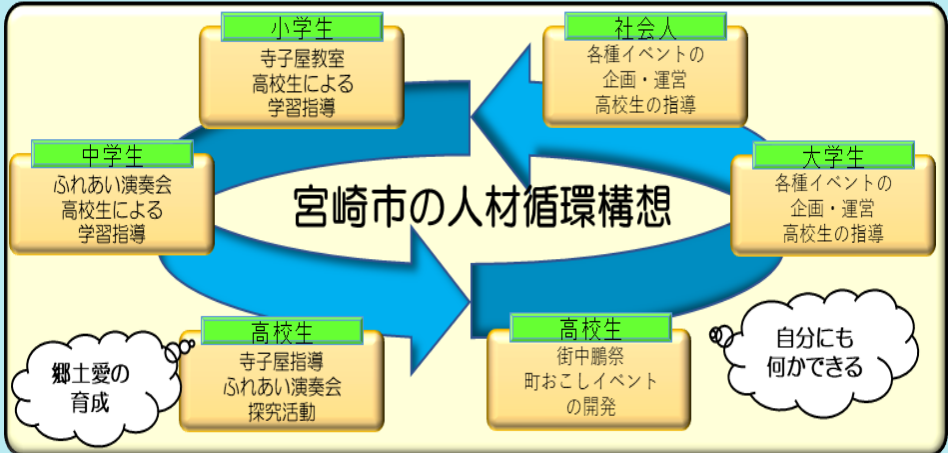
研究概要



授業及び課題研究等を通して生徒自身が自分の可能性等に気づき、地域の活性化を目指す



地域の次世代リーダーとして、地域に根差し、貢献できる人材の育成



研究開発の経緯

合計特殊出生率 全国より0.27高

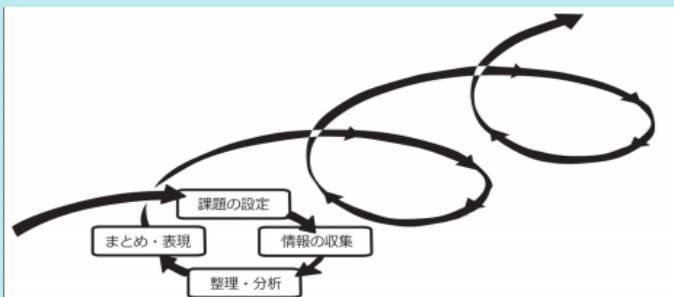
15歳未満の人口割合 全国4位

生産年齢人口 全国ワースト5位

生産年齢人口 全国ワースト5位

宮崎県外で就職を考える生徒
全体の40%

宮崎市に魅力を感じない生徒
全体の42%



「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」

①再認識力

③問題発見力

⑤共感力

②情報収集力

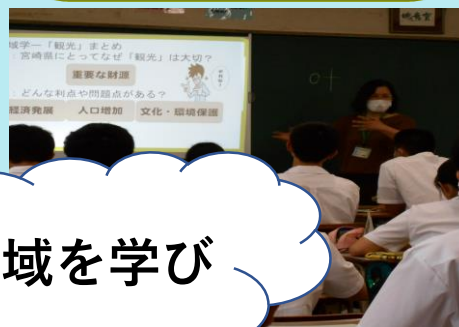
④分析力

⑥表現実行力

研究開発の内容

研究開発Ⅰ

- 地域学Ⅰ 「宮崎南×SDGs」
- 企業見学
- 鵬ドリカム講座
- 宮崎県ゆたかさ指標授業
- 鵬イノベーションコンテスト



地域を学び

研究開発Ⅱ

- 地域課題研究
- 計画発表
- 鵬ドリカム講座
- 中間発表
- ポスター研修
- 第2学年生徒研究発表会



地域課題を自分事として考え

研究開発Ⅲ

- 研究内容再検討
- MSECフォーラム
- 進路探究



MSECフォーラムオンライン参加の様子

研究開発 I (1)

実施内容 (R1, R2)

題目	実施内容
地域学 I	宮崎県の高等教育機関が取り組んでいるCOC+を利用して地域の魅力、現状を学ばせる。
地域学 II	宮崎の企業・行政の活躍を本校同窓会(鵬同窓会)を通じて知る。(鵬ドリカム講座)
鵬イノベーションコンテスト	地域の企業、行政、団体からのいただいたテーマを基に課題解決に取り組む。
進路がダンス	各大学の学部の話聞き、自分が学ぶべき分野を知る。
課題研究計画	今までに学んだことを基に2学年からどのような課題研究に取り組むか計画を立てる。

地域学 II (鵬ドリカム講座)

実際に働いておられる保護者や卒業生の方々に、現場での喜びやご苦労、その職業に就くための進路や資格などについて講演をしてもらう (29講座開催)



基調講演

地域学 I

分野	宮崎の食	宮崎の農業	宮崎の企業	宮崎の医療	宮崎の観光	宮崎の行政	宮崎のスポーツ
----	------	-------	-------	-------	-------	-------	---------



地域学行政の様子



地域学食の様子

進路ガイダンス

27大学の進学説明を聴き、進路意識を高める



講座の様子

研究開発 I (2)

鵬イノベーションコンテスト (以下トリコン)

宮崎市内の企業・団体・行政からテーマをいただく。高校生の視点からアイデアを出し、答えのない問いへチャレンジする。各クラス9班(9分野)に分かれて実施。

R1

分野	協力団体
宮崎の食	道本食品株式会社
宮崎の農業	JA 宮崎経済連
宮崎の企業	株式会社 CAMPFIRE
宮崎の医療	宮崎江南病院
宮崎の観光	宮崎空港ビル株式会社
宮崎の行政	宮崎市役所 企画財政部企画政策課
宮崎のスポーツ	宮崎市役所 観光商工部スポーツラ ンド振興課
宮崎の教育	宮崎県教育委員会 高校教育課
宮崎の人権	宮崎県男女協同参画 センター

R2

分野	協力団体
食	道本食品株式会社
農	JA 宮崎経済連
医療	宮崎江南病院
スポーツ	宮崎市役所 観光商工部 スポーツランド推進課
商業	宮崎商工会議所
観光	宮崎空港ビル株式会社
サイエンス	宮崎ガス株式会社
行政	宮崎市役所企画財政部 企画財政課
教育	宮崎県教育委員会



分野別発表の様子



協力団体から講評をいただいている様子

2年間の成果

【郷土に関する意識調査】

県外進学希望者の減少

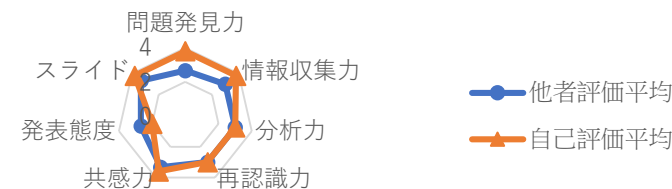
県内企業への興味関心の増加

【鵬DP評価による外部評価】

最大値を4として、数値が高いほど高評価としている
次ページ掲載

年度	再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力
1	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0
2	2.6	2.8	2.9	2.8	2.8	2.9

【生徒へのフィードバック】



研究開発 I (3)

鵬 DP 評価 (トリコン分野別発表)

評価		4	3	2	1	評価
問題発見力 課題を的確に捉え、捉えた課題から新たな視点や発見ができる力		3に加え、新たな発見ができています。	2に加え、多角的視点から課題の原因を捉えることができています。	テーマをもとに地域や社会の課題を指摘できている。	テーマをもとに地域や社会の課題を指摘できていない。	
情報収集力 調べるための手段や対象を適切に設定できる力		3に加え、テーマに沿った情報を的確に取捨選択しながら収集することができています。	2に加え、信頼できる情報源から情報を収集することができています。	インターネット、書籍、新聞等から正確な情報を収集することができています。	インターネット、書籍、新聞等から正確な情報を収集することができていない。	
分析力 論理的に思考したり、データの特徴を的確にとらえることができる力		3に加え、集めた情報を様々な観点から比較検討している。	集めた情報を適切に読み取れている。	集めた情報結果を掲載しているが、適切に読み取れていない。	集めた情報について説明がない。(情報を羅列しているだけ)	
再認識力 考えたり、振り返ったりしながら得た知識や技能を応用できる力		3に加え、独創的で魅力ある提案ができています。	2に加え、提案の根拠が述べられている。	テーマと提案の整合性がある。	テーマと提案に整合性がない。	
共感力 自分の意見を主張するだけでなく他者の意見を認めることができる力		3に加え、自分と異なる意見に対して理解を示し、自分の意見も主張できている。	2に加え、他者の意見や質問に対して適切に答えることができています。	他者の意見や質問を理解することができています。	他者の意見や質問を理解することができていない。	
表現実行力 物事を他者に伝えたり、実際に行動につなげることができる力	発表態度	3に加え、ジェスチャー等を用いて聴衆を飽きさせない工夫がある。	声量や話すスピードが適切で、堂々と聴衆を見ながら発表している。	声量や話すスピードは適切だが、ときどきメモを見ながら発表している。	声量が足りない。または話すスピードが適切でない。	
	スライド	3に加え、言葉とスライド展開(アニメーション)のタイミングが合っている。	文字や図・グラフが見やすく、アニメーションも効果的に使用できている。	文字や図・グラフは見やすいが、アニメーションを効果的に使用できていない。	文字や図・グラフが見えにくい。または引用元の記載がない。	
採用したい度		ぜひ採用したい。	一部採用したい。	参考にしたい。	採用できるところはない(あまり参考にならない)	
コメント (良かった点・改善すべき点)						総点 点

組

令和3年度の改善

(1) 地域学 I の内容見直し



地域学 I → 「宮崎南 x SDGs」に変更

(2) トリコンの見直し



協力団体からの事前講義を実施

(3) 今年度トリコン協力団体とテーマ一覧

分野	協力団体	テーマ	関連SDGs
食	支え合いの地域づくりネットワーク	「食を通して、人と人がつながりをつくる居場所を提案せよ」	1, 12
農業	長友みかん農園	「せとか」の果実を使った加工品(6次化)のなかで「ドライフルーツ」「コンフィチュール」「パウダー」の中から一つ以上を選び販路拡大のための提案(販売促進のための使用法)をせよ。	8, 12
起業	宮崎太陽キャピタル株式会社	宮崎県において、起業したら成功すると思う業種・業態とその理由について考察せよ。	8, 9, 11, 14
行政	宮崎市企画財政部企画政策課	今後人口減少社会を迎える宮崎市が、「住み続けられるまち」になるための取り組みを検討せよ。	11
スポーツ	宮崎市観光商工部スポーツランド推進課	宮崎県初のJリーグクラブ「テゲバジャーロ宮崎」の認知度を更に向上させるためのクラブが行う地域貢献活動や地域との連携活動を提案せよ	8
医療	宮崎江南病院	コロナ禍の中、子供から大人まで楽しく参加できる健康増進イベントを提案せよ	3
観光	宮崎商工会議所	伝統文化を守り続け、宮崎市を盛り上げていくプランを提案せよ	12
教育	宮崎県教育委員会	宮崎の公立学校をPRするための方法を提案せよ	4
サイエンス	宮崎ガス株式会社	宮崎県のエネルギー構成とCO2排出状況を分析し、宮崎の特徴を生かした「創エネ」「省エネ」案を提案せよ	13, 7, 11

2年間の反省

地域学 I とトリコンとのつながり

生徒が考える地域の課題が実状に即していない

研究開発Ⅱ（1）

実施内容（R1）

題目	実施内容
地域課題研究(前半)	地域課題研究に、コンソーシアムよりアドバイスを受けながら取り組む。
中間発表	有識者より意見を求め、課題内容の軌道修正を行う。
地域課題研究(後半)	中間発表を経て、研究内容を深める。
プレゼン資料作成	職員、生徒研修会を実施後プレゼンテーション、ポスター制作等する。
研究発表会	ポスターセッションによる研究成果の発表を行う。
論文作成	研究論文の書き方や手法について講義・演習を通して、研究論文を作成する。



実施内容（R2,3）

地域課題研究（前半）に計画発表を入れる

地域課題研究



中間発表



職員研修会



ポスター研修会



研究開発 II (2)

3年間の成果

【郷土に関する意識調査 R 1 → R 2】

県外進学志望者 28.5% → 33%

県内大学に魅力を感じない 25% → 16%

県内就職希望者 25.8% → 34%

【鵬DP評価による外部評R1～R3】

最大値を4として、数値が高いほど高評価としている

	再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力
R1	2.30	2.50	2.30	2.30	2.50	2.40
R2	2.56	2.56	2.57	2.42	2.46	2.52
R3	2.59	2.65	2.57	2.51	2.57	2.69

令和3年度 課題研究発表大会審査用紙

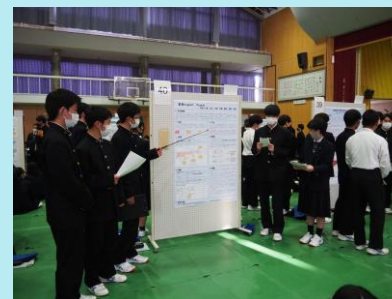
当てはまるものの点数を記入して下さい。

審査した班 _____ 班

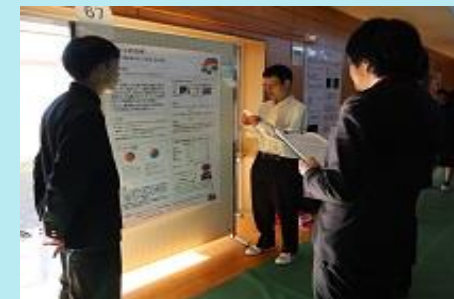
鵬DP評価表	評価基準				点数 (数字のみ)
	鵬DPとその定義 点 数	S(応用) 4点	A(つながり) 3点	B(考え) 2点	
DP 再認識力 定義 ・「既習の事項」について、振り返ったり、再現したりできる力 ・「既習の事項」について新たな価値を見出すことができる力		物事について考え、振り返る中で気づいた視点から、これまでになかったことを計画し、それを提案ができる。	考えたり、振り返ったりしたこと、これまで得た知識や技能とをつなげて、新たな視点に気づくことができる。	考えたり、振り返ったりしたことをもとに次回の計画をすることができる。	物事について考えたり、振り返ったりすることができる。
DP 情報収集力 定義 ・「未習の事項」について、調べるための手段や対象を適切に設定できる力		様々な調査から収集した情報から、真偽を確かめたり、必要か不要かなどの分類をすることができる。	インタビューやアンケートなどの調査を行い、書籍やインターネットから得た情報の裏付けを取ることができる。	書籍やインターネットから情報収集を行うことができる。	インターネットを用いて情報収集をすることができる。
DP 問題発見力 定義 ・「既習の事項」から、核心となる課題を的確にとらえる力 ・「既習の事項」から、発展的な課題を見いだす力		設定した課題を解決するための解決案を提案できる。	類似の問題解決策を参考に、現在の問題解決のための課題設定を行うことができる。	問題の原因が何かを述べることができる。	メディアから報道される問題を理解できる。
DP 分析力 定義 ・「既習の事項」をもとに、論理的に思考できる力 ・データ等から、その特徴を的確にとらえることができる力		図表や分析結果から論理的に思考し、他者に説明できる。	書籍等から、適切な図表や分析方法を自ら学ぶことができる。	図表や分析方法にもとづいて、仮説を立てて考えることができる。	データを図表に加工したり、分析方法を用いて分析できる。
DP 共感力 定義 ・教材や他者の発表などに対して主体的に関わり、理解を深められる力 ・自分と異なる考えを持っているとしても、その良さを見いだして他者を認めることができる力		自分の意見と他者の意見を総合して、これまでの自分の発想ではできなかった提案ができる。	自分意見と他者の意見の類似点や相違点について分けて考えることができる。	他者の意見だけでなく、その背景にある気持ちや感情を理解することができる。	他者の意見を理解することができる。
DP 表現実行力 定義 ・学習事項に対して、自分が理解した内容を他者に伝えられる力		スライドやポスター等の発表や論文、その他、その時最も適切な方法を選択し、他者を説得するための提案ができる。	物事を他者に伝えた後、質問や意見に対し、論理的に説明することができる。	物事を正確に他者に伝えるために必要な手段を考えることができる。	対話を通して物事を他者に述べることができる。



課題研究発表様子①



課題研究発表様子②



課題研究発表様子③

研究開発Ⅱ(3)

校外での活動

【R1の活動】

健康体操の実践
高齢者向けに考案した体操を「みやざき健康ふくしま祭り」にて実践



実践の様子



販売の様子

宮崎県が推進する「野菜を積極的に食べる活動」＝「ベジ活」をテーマに本校生徒が考案したベジ活メニュー「野菜ごろごろ旨辛ポトフ」をベジ活応援店である「Aコープオランヴェル」（宮崎市）にて試食販売

地域の自治体と協力して「鵬子ども食堂」の開催
食品はフードドライブにて集めて実施 学校を地域交流の場として活用



開会式の様子



ボランティアの方々と前日準備の様子

【R2の活動】

地域菓子店「御菓子司 上野」様とコラボしてプリンとチーズ饅頭を合わせた「プリチーまんじゅう」を考案し販売を行った。限定販売においては準備していた100個が30分で完売した。



実演販売の様子①



実演販売の様子②



プリチーまんじゅう

研究開発Ⅱ(4)

宮崎市企画政策課との連携事業

高校生が主体となったイベント「Miyazaki High School Festival 2020」計画。生徒実行委員会を立ち上げ（本校・本庄高校・宮崎海洋高校）高校生が主体となって文化芸術に関する「高校生の表現場」を創出。12月に実施予定だったが3月に延期。延期した計画も新型コロナウイルス感染拡大悪化のため中止



企画運営会議の様子



イベントのロゴ

宮崎市へ応援壁画の寄贈

イベント中止となったが、宮崎市民への応援、医療従事者の感謝の気持ちを表した壁画の寄贈を行った。宮崎市長より感謝状を授与され市役所入り口に飾られている。



感謝状贈呈の様子

【R3の活動】

宮崎市親子保健課へ白血病治療に臍帯血が有効であることを説明するパンフレット寄贈

パンフレットを妊婦の方へ配布することを依頼



パンフレット贈呈の様子



放課後指導に向けて計画を立てている様子

放課後学習サポートの運営

宮崎市立赤江東中学校と宮崎市青少年育成委員会と連携し、中学生への放課後学習指導ボランティアを計画現在実行中

宮崎県内経済活性化イベント「地域自慢バトル～食編～」の計画

現状は県外からの来客を見込めない。県内で観光業を盛り上げるために各地域の高校生で地元自慢バトルを開催予定

実施予定日	令和4年3月6日
参加予定高校	宮崎南高校、飯野高校、小林高校、日南高校、福島高校
審査方法	参加者による投票
ゴールイメージ	参加校により、各地域自慢のチラシを作成してまとめ、駅などにおいて集客向上を図る

研究開発Ⅲと今後の展望

成果の発信

R2

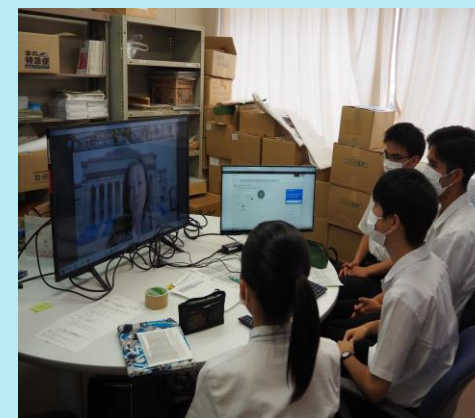


校外で実施予定だったポスターセッションが録画開催となったことをきっかけに、都城泉ヶ丘高校とオンライン発表会を実施。生徒自身で計画実行した。

R3



宮崎県のSDGsフォーラムにて実践を発表。カンボジアの子供たちへ上靴などを寄贈した実践を発表

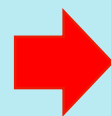


宮崎県MSECフォーラムへ参加英語部門にて1位を獲得

今後の展望

コンソーシアム団体について

宮崎市
宮崎県教育委員会
宮崎市教育委員会
宮崎大学
宮崎空港ビル株式会社
宮崎県男女共同参画センター
宮崎市大淀地域自治会連絡協議会
道本食品株式会社



ほとんどの団体と連携継続予定



都市型コミュニティ・スクールへの申請を計画中

産学官連携による地域に根差した教育



研究開発Ⅰ 研究開発Ⅱ 研究開発Ⅲ